

「新産業戦略協議会(ものづくり)殿」検討課題回答

【検討課題】

- ◆ 世の中の動向を踏まえた「新たなものづくりシステム」のブラッシュアップ
 - ・ ドイツの「インダストリー4.0」や米国の「先進製造パートナーシップ」、加えて第5期科学技術基本計画答申の「超スマート社会」の実現等の最新動向を踏まえ、システムの視点において新たなものづくりシステムに加えるべき内容の検討

- ◆ 「新たなものづくりシステム」実現の為に必要な施策
 - ・ アクションプラン対象施策の確認及び新たに取り組むべき課題の検討
 - ・ 国として実施すべき取り組みの検討

2016年1月22日

安井公治 Yasui.Koji@aj.MitsubishiElectric.co.jp

三菱電機株式会社

FAシステム事業本部 産業メカトロニクス事業部 技師長

1. 世の中の動向を踏まえた「新たなものづくりシステム」のブラッシュアップ

設定されている施策は、ほぼ必要な内容を網羅していると考えます。その上で、Society5.0を構成する重要なコアシステムとして運用するためには、『スピード感』と『現実感』の視点での補強が必要と考えます。

『スピード感』については、グローバルの半導体産業の巨大投資がIoT分野に流れ込むことにより、材料や機械などの分野と比較して桁違いのスピードの動きとなることを考慮することが必要と考えます。

また、『現実感』については、開発されていくシステムを、各企業の現場が、日常の活動に具体的に組み込む場面を想起できることが必要と考えます。

2. 新たなものづくりシステム実現に必要な施策

- ・大手企業については、各施策を企業単位で統合するための推進施策
- ・中小企業については、各施策の具体的な実装を援助する施策
- ・両者に共通する事項として、モデルケースで効果を実証した施策のプラットフォーム化を推進する施策、材料、加工などの差別化技術を開発する施策